

**2019年度大学教育再生戦略推進費
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

テーマ	テーマ①：アレルギー領域
代表校名 (連携校名)	福井大学 (金沢大学、富山大学) 計3大学
事業名 (全角20字以内)	北陸高度アレルギー専門医療人育成プラン

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉

2014年アレルギー対策基本法が公布され、アレルギー疾患診療の均霑化を求められているが、北陸地方ではアレルギー専門医が少なく、専門医も各県の中核都市とその周辺医療圏に偏在しているのが現状である。また、都会と異なり、一人のアレルギー専門医が担当すべき医療圏は非常に広く、交通の便の悪さからも医療圏によっては患者が専門医の診療を受けるのが非常に困難な状況にある。さらに、各診療科のアレルギー専門医が全て揃っている医療圏は少ないため、ある特定の診療科のアレルギー専門医が他科のアレルギー疾患の診療を担う必要もある。この問題を解決するにはアレルギー専門医数を増やすことが必須であるが、さらに限られた人的リソースを有効活用するためにも自身の専門診療科以外の領域のアレルギー診療にも対応でき、地域の病診・病病連携を推進する能力を有する**真の総合アレルギー専門医の育成とその育成システムの構築**が必要である。

本事業では福井大学中心に北陸の国立3大学が連携し、アレルギー疾患の専門的医療人材の育成に取り組む。福井大学はAMED免疫アレルギー疾患等実用化事業に「難治性アレルギー性鼻炎の定義付けとガイドライン作成」の研究代表者として採択されているとともに、同事業「アスピリン喘息の病因・機序解明」の研究分担者にもなっている。さらに指定難病「好酸球性副鼻腔炎」の厚生労働省政策研究班代表者を務めている。**福井大学の小児科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科の教授は、アレルギーを専門にしており、全国でもトップクラスのアレルギー診療体制、教育、臨床研究能力と実績がある。**さらに福井大学看護キャリアアップ部門における呼吸ケア認定看護師の育成、災害看護学教育の実績がある。そこに富山大学のエコチル富山ユニットセンター活動などの疫学研究、金沢大の先進的な集学的個別化ゲノム医療、IRUD事業などのprecision medicineへの取り組みを加える。

これまでも**福井大学が支部長及び事務局を担当している**日本アレルギー協会北陸支部、日本アレルギー学会北陸地方会の活動として、3大学のアレルギー疾患診療に関わる医師による研究会、市民向け啓蒙活動を行ってきており、この連携体制を発展させ、**北陸アレルギーセミナー**を開催する。

アレルギー疾患診療においては、アレルギー専門医以外にも、看護師や薬剤師、栄養士、心理士、ソーシャルワーカーなど多職種の医療スタッフの協力によるチーム医療の実践が重要である。現在、小児アレルギー疾患の診療に関しては、小児アレルギー・エドゥケーター制度が運用されているが、小児アレルギー疾患の専門施設以外、多くの医療機関では施設内配置転換などで小児アレルギー・エドゥケーターの資格を更新・維持することが困難な場合が発生している。とりわけ北陸の医療機関では少子化の影響もあり、小児のみに特化した人員配置を行うことが出来ない施設が多いことから、複数の診療科にまたがりアレルギー疾患診療の専門性を有した医療スタッフの育成が重要な課題といえる。

また近年多発する大規模災害時には、アレルギー疾患患者は症状が増悪したり、食物アレルギー対応食の確保や治療継続が困難となり、医療的弱者となる。そのため、大規模災害に対する減災対応、アレルギー疾患患者に関する災害リエゾン活動において地域の医療体制を理解した上で指導的役割を担える人材の育成が求められる。

アレルギー疾患の重症・難治例や難病は症例数が少ないことから単独施設で経験できる症例数が限られてしまう。少ない症例でも効率よく経験できる**遠隔教育・研修システムを確立**し、北陸における**重症・難治アレルギー疾患症例のデータベース化**による実態把握を行い、アレルギー疾患の専門医療人の育成に活用する。

〈事業の概要〉（４００字以内厳守）

本事業は、北陸３県でアレルギー疾患の専門医療人育成システムの構築を目指す。３大学の強みを生かした最先端のアレルギー診療、アレルギーマーチを中心に胎児期から高齢者までのライフステージに応じた集学的診療・予防の実践、災害対策を学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コースを新設する。TV会議システムでの遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに重症難治例や指定難病の好酸球増加疾患など特色ある症例の北陸難治アレルギー疾患データベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、各県のアレルギー疾患医療拠点病院を中心とした地域アレルギー疾患対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、専門医・医療機関偏在が問題となる地域でアレルギーの総合診療を実践し、地域医療計画や災害リエゾン活動におけるアレルギー疾患対策の中心的役割を担う人材を育成する。

②大学・研究科等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

福井大学医学部のミッションとして、「今後のさらなる高齢化等の社会状況の変化、ER型救急への取組実績、また原子力関連施設が数多く存在する福井県の地域事情等を踏まえ、**救急医療に強い総合医、緊急被ばく医療人材の養成**など、地域社会のニーズに対応した優れた指導的医療人を育成するシステムを構築する」（医学科）ことや「**災害看護研究、救急・災害に強い高度専門職業人の養成**などのこれまでの実績を活かし、福井県と連携して、災害時の支援、超高齢化・過疎化の進む地域社会の人々の健康生活の支援、在宅医療システムの構築等を推進して、地域医療に貢献する」（看護学科）こと、「医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者の養成、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と**研究マインドを持った臨床医高度専門医療人の養成**、並びに地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・ER救急医・家庭医を養成する」（博士課程）こと、「豊かな人間性と幅広く高度な看護理論・技術を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備え、**地域保健医療福祉に貢献できる看護職**及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成する」（修士課程）ことがあげられており、本事業は上記ミッションの実現に向けた事業と位置付けられる。また、本事業は、福井大学第3期中期目標・計画の2-②-1「医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、**アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服**を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期中期目標期間より20%以上増加させる。」を達成するためにも重要な事業である。

③新規性・独創性

本事業においては、北陸3大学の強みを生かした相互補完的教育プログラムを6コース新設(本科コース2、インテンシブコース4)し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換の導入によって、北陸地域医療の実態に応じた多様なニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる特色がある。

北陸3大学間ではがん診療領域(北信がんプロ)において**TV会議システムを活用した遠隔教育**の実施経験がある。このノウハウを活用し、アレルギー分野に特化した北陸地域での遠隔教育システムの構築・活用に取り組む。遠隔教育システムにより3大学や各県で指定されているアレルギー疾患拠点病院の専攻医、教員、医療スタッフ等の多職種が集まる**症例検討会**を月1回開催する。さらに、年1回開催する**北陸アレルギーセミナー**に受講者が参加、発表する。これにより北陸地域全体の多職種が、最先端のアレルギー研究、診療等を効率的に学習することが出来るとともに、地域医療機関との人材交流、多職種連携によるチーム医療教育を行うところに独創性がある。遠隔教育システムによりアレルギー専門医と遠隔他施設の看護職との連携による症例検討を進めることに加え、北陸3県の医療圏毎の主要医療機関に皮膚病変、鼻病変、口腔病変等の**映像送付システム**を導入することで、診断困難例や難治症例の症例検討会を開催し病病連携の実践教育を行うことで、将来、アレルギー専門医が存在しない医療圏との**遠隔診療体制構築への発展**応用が期待される。

北陸地域の重症・難治アレルギー疾患や難病の診療実態を把握するため、北陸地域のアレルギー疾患拠点病院およびアレルギー専門医が在籍する医療機関で受診中の重症・難治アレルギー疾患や指定難病疾患を対象とした**北陸難治アレルギー疾患データベース**を構築する。新たに構築したデータベースを基盤とした臨床研究を行い、その成果を国内・国際学会発表や英語論文発表を推進することで、専攻生や教育スタッフの意欲を高め、データベースの情報や論文等の成果をアレルギー専門医育成教育コースにも還元する。研究成果を継続的に市民公開講座等で社会に発信・還元することで、アレルギー疾患重症化予防対策の一環として地域住民に対する啓発を行う。

以上の県の枠を超えた戦略的高度アレルギー専門医療人育成システム構築活動により3大学から輩出される医師・看護師・薬剤師等は、現状の北陸のような地方において、高度アレルギー専門医療を実践する人材となることが期待され、育成モデル確立に挑戦する点に最大の新規性がある。

④達成目標・評価指標

・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：2020年4月
・教育プログラム・コースの実施数：本科コース2、インテンシブコース4、計6コース
これらの教育プログラム・コースにより、本事業全体として、30名の医師、薬剤師、看護師等を輩出し、北陸の医療状況に対応した地域医療従事者の輩出および北陸の地域医療へ貢献する。

その他の指標としては、多職種連携、人材交流などの人材育成のためのセミナーの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、映像送付システムを活用した診断困難例や難治症例の症例検討会の実施回数、市民公開講座回数、地域の重症・難治・難病アレルギー疾患診療の実態を把握する北陸アレルギー疾患・データベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。

⑤受講者のキャリアパス・キャリア形成の支援

(男女共同参画、働きやすい職場環境、勤務継続・復帰支援等も含む。)

多職種連携、役割分担によるチーム医療を通じて業務の効率化を試み、働き方改革の推進をすすめる女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指す。アレルギー診療を担当する病棟勤務看護師と外来勤務看護師の勤務体系を一体化し、入院から外来診療へのシームレスな看護支援を実践するとともに、育児中、介護中のため勤務時間に制限のある看護師が勤務を継続可能にする。また、本受講者はさらなるアレルギー研究者としてのキャリアアップのためにシカゴ・ノースウェスタン大学、オーストラリア・アデレード大学に2年間研究留学を支援する。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 運営体制

①実施体制

各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進する。全学長が集まる学長連絡協議会を設置し、事業の進捗を管理する。3大学・地域医療機関・医師会・自治体等による北陸アレルギー専門医療人育成運営協議会（年1回開催）を設置し、実際の意思決定及び運営を行う。さらに3大学による総務委員会、教務委員会、データベース委員会（個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、広報・企画委員会等を設置（年1回開催）し、実務を担当する。福井大学医学部附属病院に設置する福井アレルギー疾患対策センター長が統括コーディネーターとして3大学の連携強化・調整を行う。

②評価体制

内部評価委員会（研究科長等の内部有識者）及び外部評価委員会（地域医療機関の長や患者会代表等の外部有識者）を設置し、事業（特に数値目標の達成状況や一般向け情報発信状態）を定期的（中間、最終）に評価する。各評価委員会が評価結果を北陸アレルギー専門医療人育成運営協議会に提出し、同協議会で評価に対するPDCAサイクルを回して事業計画を見直し、運営状態の改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者へのアンケート調査を行い、同様に事業内容改善を図る。

③連携体制（連携校との役割分担等）

連携3大学では学長連絡協議会・北陸アレルギー専門医療人育成運営協議会等の実施体制を整備し、各大学の強みを生かした相互補完的教育プログラムのコースを設置する他、連携校持ち回りの北陸アレルギーセミナー（年1回）、症例検討会（毎月1回）等を実施することで、多施設・多職種連携・チーム医療教育を行いスキルアップを図る。北陸難治アレルギー疾患・データベースを構築し、データ管理・運用を行う。

④連携体制（自治体、企業等との連携体制や連携のメリット等）

各県に設置された**アレルギー疾患医療連絡協議会と連携**し、本事業で得られた成果を各県自治体のアレルギー疾患に関する啓発および普及活動に還元する。加えて、自治体のアレルギー疾患の予防・医療提供体制のための施策や災害時対応について積極的に関わる。一方、アレルギー疾患医療連絡協議会などを通じて各県が抱えているアレルギー疾患の予防・診療体制の問題点や地域のニーズをくみ取り、本事業の教育プログラムに反映させる。**全国規模のe-learningシステムに発展**させ、新規教材作成に協力して本事業の情報発信を行う一方で、必須科目教材の提供を受ける。8月には鼻の日、2月にはアレルギー週間としてアレルギー疾患医療連絡協議会と共催で市民公開講座を開催する。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する具体化を前提とした構想

日本の少子高齢化、人口偏在化が進む中、アレルギー疾患診療の均質化と診療レベルの向上を担保するために必要となる高度アレルギー専門医療人の戦略的育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。各県のアレルギー疾患医療連絡協議会、アレルギー診療拠点病院との連携を強固なものとし、大規模災害発生時に強い人的ネットワークを維持する。北陸アレルギーデータベース構築事業は、北陸発のアレルギー研究を実施するため基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

②事業成果の普及に関する具体化を前提とした計画

本事業で構築する高度アレルギー専門医療人育成システムは、少子高齢化、人口偏在が進む日本の地方においても機能する人材育成モデルであり、国内のアレルギー関連学会（日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本皮膚科学会等）や、日本アレルギー協会（特にアレルギー週間事業）、市民公開講座、ホームページ、マスメディア（TV、新聞、雑誌等）等を通じて成果を発信し、国民に「アレルギー疾患の正しい理解」ができるよう啓発に努める。

3. 事業実施計画

(1) 年度別の計画

2019年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 8月 学長連絡協議会、各種委員会（総務委員会、教務委員会、データベース委員会、広報・企画委員会）→事業計画（中期、年度）等の協議 ② 8月 各教育コース設置に伴う連携体制の整備に着手 ③ 9月 e-learningクラウドシステムへの参加開始 ④ 10月 北陸難治アレルギー疾患データベース構築に着手 ⑤ 10月 北陸アレルギー専門医療人育成運営協議会 ⑥ 11月 症例検討会開始（TV会議、以後毎月1回開催） ⑦ 1月 北陸アレルギーセミナー（キックオフセミナー）開催 ⑧ 3月 内部評価委員会開催
2020年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 学長連絡協議会、各種委員会（年度計画等の協議） ② 4月 教育コース開始 ③ 4月 北陸難治アレルギー疾患データベース登録開始 ④ 4月 症例検討会（TV会議、毎月1回）開催 ⑤ 6月 北陸アレルギー専門医療人育成運営協議会 ⑥ 8月（鼻の日）市民公開講座開催 ⑦ 1月 北陸アレルギーセミナー開催 ⑧ 2月 市民公開講座開催 ⑨ 3月 外部評価委員会（中間）開催
2021年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 学長連絡協議会、各種委員会開催（年度計画等の協議） ② 4月 症例検討会（TV会議、毎月1回）開催 ③ 6月 北陸アレルギー専門医療人育成運営協議会開催 ④ 8月（鼻の日）市民公開講座開催 ⑤ 1月 北陸アレルギーセミナー開催 ⑥ 1月 内部評価（最終）実施 ⑦ 2月 市民公開講座開催 ⑧ 2月 外部評価（最終）実施 ⑨ 3月 事業成果報告会開催
2022年度 [財政支援 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸難治アレルギー疾患データベース関連の会議開催（利用・改善・発展に向けた協議） ・受講者の海外留学支援 ・市民公開講座の継続

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部				
教育プログラム・コース名	アレルギー専門医リーダー養成コース（インテンシブ）				
対象者	地域医療機関においてアレルギー診療に携わる医師				
修業年限（期間）	1年				
養成すべき人材像	診療科の枠を超えてアレルギー疾患の診療に携わる専門的な知識及び技能に加え、地域におけるアレルギー診療のリーダーとして活躍できる人材				
修了要件・履修方法	<修了要件> 必修科目2単位の修得。 北陸アレルギーセミナー、症例検討会への参加4回以上（TV会議システム） <履修方法> e-learning教材、TV会議による症例検討会、セミナー等で履修する。				
履修科目等	<必修科目> アレルギー診断学特論（1単位）、アレルギー治療学特論（1単位）、北陸アレルギーセミナー、症例検討会への参加				
教育内容の特色等（新規性・独創性）	e-learningにより必修科目を履修、北陸アレルギーセミナー、TV会議システムによる症例検討会等に参加する。特に、映像送付システムを活用し診断困難例や難治症例、問題症例を症例検討会に提示し、主体的に参加することを推奨する。本コースの特徴として、遠隔教育から遠隔診療体制の構築につながるよう、TV会議システムによる症例検討会等への参加が単位認定の重点となるよう考慮する。				
指導体制	福井大学および連携機関に所属するアレルギー各領域の医師が直接指導する体制をとる。				
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	アレルギー疾患診療拠点病院と連携し、地域の医療機関において当該医療圏のアレルギー疾患の診療レベルの向上を担うリーダーとなる。日本アレルギー学会のアレルギー専門医・指導医取得を目指す。				
受入開始時期	2020年4月				
受入目標人数	対象者	2019年度	2020年度	2021年度	計
	医師	0	4	4	8
					0
					0
	計	0	4	4	8

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部				
教育プログラム・コース名	地域アレルギー専門医療人養成コース（インテンシブ）				
対象者	看護師、保健師、薬剤師、栄養士				
修業年限（期間）	2年				
養成すべき人材像	各診療科にまたがるアレルギー疾患の病態を理解し、多職種協働でアレルギー疾患の診療と患者とその家族支援ができる人材				
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 必修科目2単位を含む5単位以上の修得。北陸アレルギーセミナー、症例検討会への参加4回以上（TV会議システム）</p> <p><履修方法> e-learning教材、演習、TV会議による症例検討会、セミナー等で履修する。</p>				
履修科目等	<p><必修科目> アレルギー病態学（1単位）、アレルギー治療学（1単位）、TV会議システムにより症例検討会に参加する。</p> <p><選択科目> アレルギー疾患診療支援演習（3単位）、食物アレルギー負荷試験演習（1単位）、吸入指導・在宅注射指導演習（1単位）</p>				
教育内容の特色等（新規性・独創性）	必修科目はe-learningを利用して受講する。アレルギー疾患診療演習では福井大学医学部附属病院各診療科のアレルギー専門外来において患者と家族への指導に参加し、レポート作成を行う。北陸アレルギーセミナー、症例検討会に参加し、他施設多職種連携について学習する。				
指導体制	福井大学医学系部門および附属病院のアレルギー各領域の医師および小児アレルギーエドゥケーター等が直接指導する体制をとる。				
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域の基幹病院のアレルギー診療体制においてそれぞれの職種での指導的役割を担う。 小児アレルギー・エドゥケーター取得希望者には小児科での演習科目を通じて、資格取得の支援を行う。				
受入開始時期	2020年4月				
受入目標人数	対象者	2019年度	2020年度	2021年度	計
	看護師、保健師、 薬剤師、栄養士	0	5	5	10
	計	0	5	5	10

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻				
教育プログラム・コース名	アレルギー研究者育成コース				
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻大学院生				
修業年限（期間）	4年				
養成すべき人材像	アレルギー疾患の病態解明、新規診断・治療法開発を目指す研究マインドを有するアレルギー専門医				
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 共通科目18単位、選択科目12単位以上を修得し、アレルギー疾患に関する研究論文が学位審査に合格すること。北陸アレルギーセミナー、症例検討会への参加4回以上。 なお、器官再生医学部門の科目においては、今回の事業で新たに作成するe-learning科目との読み代えにより、修了要件の単位数に算入する。</p> <p><履修方法> e-learning教材、演習、TV会議による症例検討会、セミナー等で履修。</p>				
履修科目等	<p><共通科目> 医科学基礎総論（4単位）、実験基礎演習（2単位）ほか2科目</p> <p><選択科目> 器官再生医学部門の科目である成長発達病態学（2単位）、成長発達病態学演習（4単位）、呼吸循環器再生分子科学（2単位）、呼吸循環器再生分子科学（4単位）、アレルギー学特論（2単位）、アレルギー学特論演習（4単位）のほか、分野専門科目</p>				
教育内容の特色等（新規性・獨創性）	e-learningにより科目を履修し、アレルギー研究に必要な基礎・臨床の研究手法、論文作成法を習得する。北陸アレルギーセミナー、TV会議システムによる症例検討会等に参加し、アレルギー疾患の診療現場での問題点を把握し、研究へとつなげる。また、北陸難治アレルギーデータベースを活用し、臨床研究を実施する経験を積む。				
指導体制	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻先端応用医学コースのアレルギー各領域の教職員がアレルギーの臨床、基礎および研究について直接指導する体制をとる。				
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	リサーチマインドを持ったアレルギー専門医として、アレルギー性疾患の病態解明、新規診断法・治療法開発を目指した北陸発の研究を行う人材として大学病院を中心に、難治性アレルギー疾患、アレルギー難病の診療、研究に携わる。				
受入開始時期	2020年4月				
受入目標人数	対象者	2019年度	2020年度	2021年度	計
	大学院生	0	2	2	4
					0
					0
					0
	計	0	2	2	4

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻				
教育プログラム・コース名	総合アレルギー専門医育成コース				
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生				
修業年限（期間）	4年				
養成すべき人材像	複数の診療科にまたがりアレルギー疾患診療の専門性を有した人材				
修了要件・履修方法	<p><修了要件> アレルギーに関する英語研究論文が受理・掲載され、学位審査に合格すること。 北陸アレルギーセミナー、症例検討会への参加4回以上。</p> <p><履修方法> e-learning教材、TV会議による症例検討会、セミナー等で履修。</p>				
履修科目等	<p><必修科目> 呼吸器内科学特論，アレルギー学会北陸地方会（日本アレルギー学会）への出席</p> <p><選択科目> アレルギー学会主催の総合アレルギー講習会（単位）への出席、当プログラム公認の地域における学会、セミナーおよび研究会等への出席、e-learning科目</p>				
教育内容の特色等（新規性・独創性）	Total Allergistをめざして、幅広いアレルギーに関する知見の習得、最新情報を効率よく獲得できる。アレルギー性の咳嗽に関する、臨床的および基礎的研究に従事し、世界をリードする。				
指導体制	大学および連携機関に所属するアレルギー各領域のエキスパートであるスタッフがアレルギーの臨床、基礎および研究について直接指導する体制をとる。				
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、アレルギー全般に関する世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフや地域におけるアレルギー診療のリーダーとしてアレルギー診療向上、チーム医療および地域医療推進に貢献する。				
受入開始時期	2020年4月				
受入目標人数	対象者	2019年度	2020年度	2021年度	計
	大学院学生	0	2	2	4
					0
					0
					0
	計	0	2	2	4

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学附属病院				
教育プログラム・コース名	地域アレルギースペシャリスト養成コース（インテンシブ）				
対象者	医師				
修業年限（期間）	1年				
養成すべき人材像	地域で求められている、種々のアレルギー疾患（喘息、鼻結膜炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど）患者の基本的な管理・指導ができる人材				
修了要件・履修方法	<修了要件> 必修科目2単位と選択科目を24時間以上受講すること。 日本アレルギー学会主催「臨床アレルギー講習会（8時間）」を受講し、北陸アレルギーセミナー、症例検討会に2回以上出席すること。 <履修方法> e-learning科目、講習会、セミナー参加				
履修科目等	<必修科目> 臨床アレルギー学特論（2単位） <選択科目> 呼吸器内科実習（8時間）、小児科実習（8時間）、耳鼻咽喉科実習（8時間）、皮膚科実習（8時間）、眼科実習（8時間）、総合診療部実習（8時間）				
教育内容の特色等（新規性・独創性）	我が国のアレルギー専門医は、内科・小児科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科に別れており、一人で総合的に診るシステムになっていなかった。しかし、地方では上記全ての専門医が揃うことはないため、いずれの疾患に対しても基本的な管理・指導できる人材が求められている。そこで、大学病院の特性を生かして、幅広いアレルギー疾患の基本的な管理・指導ができるように実習を中心としたプログラムとした。				
指導体制	富山大学附属病院の内科・小児科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科の専門医が直接指導する。				
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	医師数の少ない地方で幅広いアレルギー診療に従事できる医師として、地域医療に貢献できる。				
受入開始時期	2020年4月				
受入目標人数	対象者	2019年度	2020年度	2021年度	計
	医師	0	1	1	2
					0
					0
					0
	計	0	1	1	2

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

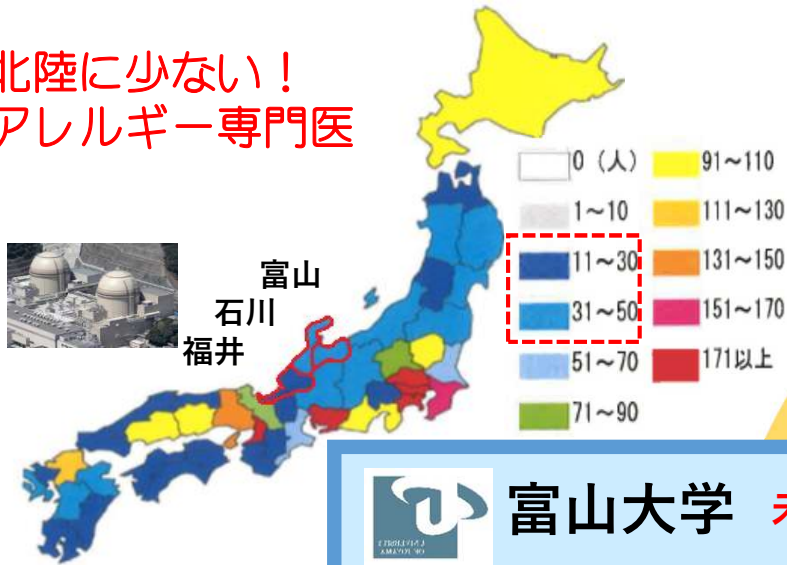
教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部博士課程 アレルギー疫学研究養成コース				
教育プログラム・コース名	エコチル調査アレルギースペシャリスト養成コース（インテンシブ）				
対象者	医療従事者				
修業年限（期間）	2年				
養成すべき人材像	様々な小児アレルギー（喘息、鼻結膜炎、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど）を扱う医療従事者				
修了要件・履修方法	<修了要件> 必修科目2単位と選択科目を24時間以上受講すること。 自ら統計解析を行い、論文投稿までを修了要件とする <履修方法> 社会医学系専門医・指導医および生物統計家より直接個人指導を受ける。				
履修科目等	<必修科目> 臨床アレルギー学特論（2単位） <選択科目> 呼吸器内科実習（8時間）、小児科実習（8時間）、耳鼻咽喉科実習（8時間）、皮膚科実習（8時間）、眼科実習（8時間）、総合診療部実習（8時間）				
教育内容の特色等（新規性・独創性）	臨床疫学を学ぶ上で重要なのが方法論、すなわちその妥当性とデータの質にある。そういった意味ではエコチル調査はどの点をとっても最高水準にあり、小児アレルギーを学ぶ若手医療従事者にとっては理想的な題材である。解析および論文投稿を通して、データの解釈、統計的手法、データの表現方法に関して学ぶことができる。				
指導体制	富山大学大学院医学薬学研究部公衆衛生学講座スタッフ及び富山大学附属病院の内科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科の専門医が直接指導する。				
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	上記の指導体制とともに、常に若手研究員・研究支援員が数名在籍しているので、屋根瓦形式の教育プログラムを進めることができる。将来的には、小児アレルギーの臨床現場のみならず、大学での後進育成ができるリーダーを育てたい。				
受入開始時期	2020年4月				
受入目標人数	対象者	2019年度	2020年度	2021年度	計
	医療従事者	0	1	1	2
					0
					0
					0
	計	0	1	1	2

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。

北陸高度アレルギー専門医療人育成プラン

北陸に少ない！
アレルギー専門医



福井大学

2018年AMED免疫アレルギー実用化事業採択
厚労省指定難病政策研究班

全国トップクラスの診療体制・教育・臨床研究能力と実績
呼吸器内科・小児科・耳鼻咽喉科：アレルギー専門教授

呼吸ケア認定看護師の育成
災害看護学教育の実績



富山大学 未来を動かすプロジェクト

総合診療：未来医療研究人材養成拠点形成事業
環境省：子どもの健康と環境に関する全国調査
(エコチル調査)

北陸アレルギーセミナー・事例検討会
北陸難治アレルギー疾患データベース



TV会議システム・e-learning
遠隔診療体制構築



アレルギー疾患対策
拠点病院



協力・連携

日本アレルギー学会北陸地方会
日本アレルギー協会北陸支部

アレルギー疾患
医療連絡協議会



金沢大学 人材養成プログラムの実績

北信越がんプロ：高齢化地域での先進的がん医療人養成
個別化ゲノム医療
IRUD事業

北陸地域のアレルギー疾患診療均霑化を目指して

- ・ 総合アレルギー専門医の育成
- ・ 研究マインドを持った臨床医育成
- ・ 災害時にも強いアレルギー臨床医育成
- ・ 診療科の枠を超えたアレルギー専門医療スタッフの育成